

議会だより

59 のとちょう

2020. 2. 1

12月定例会議	2-3
一般質問	4-11
議案をチェック	12
常任委員会レポート	13-14
主な議会活動	15
まちかどインタビュー	
編集後記	16



姉妹都市締結を可決！

関係である長野県信濃町と姉妹都市の盟約を取り交わす。



野尻湖ナウマンゾウ博物館



特産品のとうもろこし

一般会計補正予算14億2993万8千円を補正し
令和元年度一般会計予算は総額198億3885万円に

おもな補正予算

- ◇**議会費 ▲88万5千円**
人件費を減額
- ◇**総務費 ▲1704万7千円**
人件費を減額
高齢者運転免許自主返納支援事業費を追加
- ◇**民生費 519万7千円**
ひとり親家庭医療費給付事業を追加
こどもみらいセンター外壁改修工事におけるアスベスト除去費を追加
- ◇**衛生費 ▲784万2千円**
公立宇出津総合病院への病院事業会計への負担金を減額
- ◇**農林水産業費 1305万2千円**
林地崩壊防止事業（柿生地内）を追加
- ◇**商工費 1682万5千円**
創業・継承支援事業を追加
国民宿舎など6観光施設の分煙室設置費を追加
- ◇**土木費 ▲2282万2千円**
急傾斜地崩壊対策事業を減額
- ◇**消防費 240万9千円**
消防団にトランシーバーを追加配備するための費用を追加
能都庁舎（旧能登町役場）設置の屋外拡声器の撤去に伴う影響調査費を追加
- ◇**教育費 ▲1418万4千円**
人件費を減額
スクールバス運行業務委託費確定による減額
秋吉公民館のアマメハギ展示工事費を追加
- ◇**災害復旧費 9938万円**
8月豪雨による農地2件、農業用施設2件の災害復旧費を追加
林道往古線・林道上河内線の復旧費を追加
- ◇**公債費 13億5585万5千円**
将来の公債費負担を軽減するため、繰上償還金を追加

令和元年第7回能登町議会12月定例会議が12月6日から13日にかけて開催され、議案27件が提出された。議案は、一般会計・特別会計及び企業会計の補正予算のほか、条例改正や姉妹都市の締結、公の指定管理者の指定などであり、各常任委員会により審査し、全議案を可決とした。最終日に議会提出議案として2件の意見書を提出しそれぞれ可決した。11日には8人の議員が町政全般について一般質問を行った。

10月会議について

令和元年10月23日に第6回能登町議会10月会議が開催され、一般会計補正予算のほか、請負契約の締結についてが2件提出され、それぞれ可決とした。

長野県信濃町との

令和2年3月1日の町制施行15周年に合わせ、現在友好都市



長野県信濃町位置図



有名な野尻湖と黒姫山

その他の主な議案

公の施設の指定管理者の指定

- ・『比那集会所』を『比那町内会』
- ・『能登七見健康福祉の郷なごみ』を『株式会社能登町ふれあい公社』
- ・『七見台潮騒体験農園』を『株式会社能登町ふれあい公社』
- ・『能登町宇出津港水産物鮮度保持施設』を『石川県漁業協同組合』
- ・『能登町宇出津港水産物加工処理施設』を『株式会社奥能登食材流通機構』
- ・『セミナーハウス山びこ』『ふれあい工房』を『株式会社山びこ』
- ・『ラブロ恋路』を『株式会社能登町ふれあい公社』
- ・『真脇遺跡公園』を『株式会社能登町ふれあい公社』
- ・『国民宿舎能登やなぎだ荘』ほか5施設を『株式会社能登町ふれあい公社』
- ・『ふれあいの里施設』を『合同会社能登みらい創造ネットワーク』

議会提出議案

能登町議会として2件の意見書を関係大臣へ提出

○豚コレラの早期終息に向けた緊急かつ具体的な対策を求める意見書

要旨：昨年9月に国内で26年ぶりに発生した豚コレラは、この1年間に14万頭を超える殺処分が行われるなど甚大な被害をもたらしている。

そこで政府におかれては、今回の事態を国家レベルの危機事案と受け止め、養豚農家が今後も安心して経営を続けられるよう、豚コレラ終息に向けた緊急かつ具体的に取り組むことを強く求める。

○令和元年台風19号等からの復旧・復興に向けた対策を求める意見書

要旨：台風19号等の影響により東北、信越、関東、東海にかけて、河川の堤防が決壊した他、越水などによる浸水被害、土砂災害などが広範囲に渡り多数発生し、各地に甚大な被害をもたらした。

水道や電気等のライフライン、鉄道や道路等の交通インフラの早期復旧、決壊した河川の堤防等では、二度と災害を起こさない「改良復旧」を強力に推進するとともに、ソフト・ハード両面にわたる復旧・復興に向けた総合的な支援策を強力に講じることを強く求めるものである。

いっばん質問

議員が、町の一般事務に対してその執行の状況または将来の方針、政策的提言や行政への批判などを執行者に直接質問することです。

12月定例会議の一般質問（11日）

問 ほ場整備事業の難点改善を

答 事業支援及び推進を図る



吉田 義法 議員

問 ほ場整備事業は、国においては、食料供給力の確保や国土の保全・防災に必要であり、農業従事者には、生産コストの低減を図ることが可能となる事業である。①町内のほ場整備事業の進捗状況並びに今後の計画について説明を。②ほ場整備事業推進にあたり、地区住民の負担軽減を図るため事務作業を地区の町職員や農林水産課で行うことはできないか。③また、現在の農業従事者も担い手となる条件の緩和が必要だと考えるが、町の見解は。



ほ場整備された田

答 農林水産課長
①当町では、現在5地区で事業が進められており、奥能登管内においては事業採択件数が突出しているが、まだまだほ場整備事業を推進していく必要があると認識している。
③担い手の定義として、安定的に経営するため必要な水準が定められており、町は、個人や集落が新たな担い手となる取組を応援する。

答 町長

②個人所有の農地を整備する事業のため、今後事務作業の主体は地元で担ってもらい、集落支援員や職員がバックアップすることで、負担軽減を図る。

問 少人数中学校の統合を図れ

答 統廃合は避けては通れない道だが

問

少人数になった中学校において順次統合し、将来的には、町内で中学校は1校が望ましいと考える。①小木中学校は既に統合の時期が来ていると6月会議でも述べたが、住民から意見は届いているか。また、町は何か調査をしたか。②統廃合を考える際の基準となる1学年当たりや全校生徒数を定めておくべきと考えるが、町の見解は。③小木小学校へ通う児童の保護者を対象にアンケート調査を行った。約6割の方が統合を望む、統合はやむを得ないと回答した。町が考える適正な形は何か。また何をしなければならぬと考えるか。

答 教育委員会事務局長

①統廃合について住民からの意見は届いていない。調査も行っていない。

答 教育長

②学校適正配置方針では、教育活動に制約が生じず、複数の部活動から希望する部が選択でき、通学1時間以内で、旧3町村を基本とした配置を目指すことになっている。

答 町長

③少子化はさらに進むことが予想され、子供たちが生きる力を培うことができる学校教育を保障する観点からも、統廃合は避けては通れない道だと考えるが、通学距離や地理的な事情、地域とのつながりを考慮し、スムーズな統合のために、学校間交流を行いながら、時間をかけることも大切だと考える。



市濱 等 議員

問 各種証明書等郵便局取扱いは可能か

答 現時点では現状を維持したい

問 白丸、高倉、瑞穂、神野地区、町内でも比較的人口の多い所で、役所の出先機関のない地区の郵便局に、各種証明書発行業務を委託できないか。

答 町長 現在、本庁、内浦、柳田庁舎、鶴川、小木支所5か所と奥能登2市2町の広域圏でも可能である。充実したサービスを維持している。支所等廃止等が考えられるときは検討するが、現状の取り扱いを維持したい。

問 予防防災には自然環境の整備、訓練が大切だ

答 各種行事、訓練等情報の発信、啓発に努める

問 防災には自然環境の整備が急務だ。荒廃した森林の回復等、治山治水事業に積極的に取り組むべきだ。

また、警戒レベル1〜5の状況を、しっかりと町民の皆さんに、分かりやすく伝えることが大切だ。

今年度の防災訓練収穫は何か。各地域で特色のある訓練も必要ではないか。

答 町長 森林環境譲与税、森林経営管理制度に基づき、今年度から適切な対応を図りたい。防災予防対策は、各位が関係機関と一体となって活動するなど、自主防

災組織の結成、防災士の育成に努める。また、防災に関する施設、設備の整備等災害予防の強化を図る。

緊急性、協調性を伝える。今回の訓練では、落ち着いて行動できる学習ができた。各地域での防災訓練は、対応力を高める重要な活動だ。今後も支援したい。



柳田小学校を主会場に行われた防災訓練



田端 雄市 議員

問 指定管理者制度へ提言する

答 施設の魅力、発揮に努める

問 指定管理者制度での運営は、町の政策課題を解決する方法であり、手段である。町にそのビジョンがあり、ガバナンス（統治能力）の働きのない導入の効果を発揮できない。さらなる住民サービスの対応策を示せ。



羽根万象美術館

答 町長 文化施設は、そのビジョンや現状を検証・検討していく。運営は、町民目線で、町と指定管理者がともに、よりよいサービスの向上と持続的な提供をしていく。

問 認知症サポーターの活用を望む

答 サポーターの活動は支援する

問 高齢の認知症サポーターが高齢者の生活を支援する。そうした事例が全国各地にある。サポーターの養成をもっと進め、地域コミュニティの担い手としていくべき。

答 町長 現在、サポーターは、2,117人であり、今年度から小学生の高学年や中学生も受講している。今後も養成には、しっかりと取り組む。町の方針は、認知症を正しく理解し、偏見を持たず、地域での共生を目指している。サポーターの方が地域担い手の、その活動の意欲があれば、支援をしていきたい。



馬場 等 議員

問 災害時に屋外拡声器
使用できるのはだれか

答 町職員及び能登消防署職員
だけである

問

9月1日付で屋外拡声器の鍵と鍵の管理を委託するための覚書が町会長区長へ送られてきました。屋外拡声器放送は停電でも使用できるということなので、災害時の緊急放送を、町会長区長が屋外拡声器とする事を想定しているのか。

答 町長

能登町のIP告知放送システム施設等管理運営要項においては、緊急放送とは、災害その他の緊急放送を町が自ら行う放送と定義している。町会長区長が屋外拡声器を使用するのは、町内の方々に対し、町内における活動の啓発や周知の放送が必要になった場合であっても、災害関係における緊急放送をするものではありません。



屋外に設置された拡声器

問 町長の公共交通に対する考え方は

答 人の交流を図る大切な役割がある

問

能登町の地域公共交通協議会の会長でもある町長の、公共交通に対する考え方について聞く。

答 町長

運転できない方にとつての移動手段であるほか、外出機会増加による賑わいづくりの創出や、観光客等の移動の利便性や回遊性の向上によって、人の交流を活発化すること、重要な役割であるというふうに考えている。

問 その他質問

能登町の公共交通の現状認識は

公共交通は、住んで良かったと言える町づくりにおいては、医療、福祉、教育、観光、商工業を支える土台であり、土台が崩れると、町そのものが機能しなくなるくらい大事なものだと思う。それを踏まえて、能登町の公共交通の現状認識と課題は。

答 町長

決して満足できる状態ではない。運転できない方や、観光客にとりましては、決して満足できる状態ではないと思っています。課題としては、路線バスが運行していない地域が点在していること、そして運行しているも利用者の都合を全て満たしたダイヤではないこと、目的地向かうためには乗り継ぎが必要であることなどです。

ただ、民間事業者が運行している路線バスや予約制乗合タクシーの運営に対する町としての決定権はなく、これからも継続運行していただくようこれらの事業に支援を行っていきたく考えています。

地域公共交通協議会の活動状況は

能登町地域公共交通協議会は平成20年3月に事業者、利用者、道路管理者、関係団体などからの代表が委員となり、会長は持木町長です。はや、10年が経ちました。主な活動状況は。

答 町長

24回にわたって議案審議をした

事業者が事業を実施するにあたり、北陸信越運輸局石川運輸支局へ許可申請や届出をする際に、地域の集約された意見を付けて提出する必要があるので、協議会で審議を行うというものである。予約制乗合タクシーの料金変更や路線バス時刻変更、柳田地区の住民混乗スクールバスの路線再編成などについて、これまで協議している。平成20年3月に能登町地域公共交通協議会を設置した。その年から、能登町地域公共交通総合連携計画を策定し、公共交通政策を検討しており、13の実施計画のうち、現在でも6事業を実施しております。しかし、近年の町を取り巻く情勢にマッチしていない部分が生じてきているので、今後、能登町地域公共交通協議会を開催していければ思う。



志幸 松栄 議員

問 高齢化の現状と今後の対応は

答 介護予防事業等の推進を充実していきたい

問

当町の高齢化率は。また、高齢化に伴う交通弱者への対応。さらに、体力の衰退による日常生活でのごみ出しや除雪等の生活の基盤整備が、スムーズにいかない状況の中で対応策をどう考えていくのか。

答 町長

高齢化率としては、65歳以上は総人口の46.8%で、うち後期高齢者は55.8%を占めている。町としては、少しでも総人口の減少を抑えるべく、子育て環境の充実、

交流人口、移住定住対策等を講じている。

次に、交通弱者の件では、タクシー事業者が実施する予約制乗合タクシーの支援を考えており、これを広くPRしていきたい。

また、高齢化による体力の衰退関係では、いきいきデイサービス事業で介護認定に至らない方も利用していただくという他の市町では行っていない地道な介護予防事業を行っていることが、体力の増進に繋がっているのではと考えている。

問 来年度の当初予算の内容は

答 国土強靱化地域計画を策定する

問

まず、来年度重点的な政策は、次に新規事業としての考えは、さらに、予算としての規模はどのくらいなのか。

答 町長

現在としては予算編成作業中であり、具体的な内容については差し控え

問 その他質問

公立宇出津総合病院の今後の運営は

公立病院の再編・統合の件で、新聞紙上で公表された。その中には、当病院は該当していないが、今後の見通しは。

また、医療従事者についての人員の確保はどうか。

答 町長

医療機関としての質、量の確保に努める

るが、その中で重点的政策としては、全国各地で大規模災害を受け、国と歩調を合わせ、国土強靱化地域計画を策定し防災対策を進めるほか、地域防災計画の見直しを図るなど、防災、減災への取り組みに力を入れていきたい。また、公共施設の縮減にも取り組む。

次に、新規の事業としては、能都庁舎の解体等が挙げられ、ソフト面では、第2期能登町創生総合戦略に基づく事業の予算化を検討していく。さらに、予算の規模については、大型ハード事業の継続によることで、150億〜160億円程度を見込み、今後も財政の持続可能性を確保しながら、適正な予算規模による行財政運営を心がけていきたい。

宇出津総合病院は診療実績及び、類似かつ近接のどちらの項目においても、基準をクリアしているが、今後救急車の受け入れ台数の減少等により、基準を満たすことが出来なくなつた場合には、公表された病院と変わらぬ水準となる可能性があります。

また、人員の確保の件では、修学資金の貸与事



公立宇出津総合病院待合室

問 両地区の地域経済を保つためには

答 職員には、地元へ寄り添い、地元愛を育むよう呼びかける

問

来月1月6日に、2町

1村が合併してから協議し続けてきた統合庁舎が開庁します。柳田庁舎や内浦庁舎は、職員数もぐっと減り、その庁舎を訪れる人も減ることになり、小さな小さな商店街は、ますます寂しくなります。両地区の地域経済も激減するに違いありません。小さな小さな事かもしれませんが、今までと変わ

らない地域経済を保つには、どう考えているか。

答 町長

飲食店やガソリンスタンド等にも少なからず、影響が想定される。公用車の給油や車検等のメンテナンスは、引き続き地域バランスを考慮して対応したい。職員の買い物等は強制できないので、ご近所やおさななじみの飲食店等を考え、個々で判断してもらえばと思う。

職員には、できるだけ地元へ寄り添い、地元の経済を大切に、地元の地元愛を育むよう呼びかけたい。

問 台風19号による避難所の開設について聞く

答 より早い段階での対応に心がけたい

問

避難所を開設するならば、もっともっと早く、どの自治体よりも開設するのが望ましかったのではないかと。朝からずっと町民のために一生懸命待機されている職員も批判されます。いや、それだけならまだいい。町民の命にも関わる事であると思うが、なぜ、開設が遅れたのか。今後どうお考えなのか。

答 町長



台風上陸で開設された自主避難所

今回の台風19号については、非常に強い勢力を持った台風でありました。幸い当町は暴風域からそれていた事、また、金沢地方気象台からのホットライン等では、雨足がそこまで強くならないという情報を得ていたこともあり、5施設を14時に自主避難所として開設するという判断に至りました。今後におきましては、避難が必要な災害が発生するおそれのある気象状況の際は、より早い段階での避難情報の発令、避難所の開設等の対応に心がけたい。

問 その他質問

能登町防災訓練の反省点を聞く

10月6日に行われた能登町総合防災訓練が、柳田小学校をメイン会場として行われました。この6日後に、あの甚大な災害をもたらした台風19号が上陸したのでした。いつ、どんな災害が起こるかわかりませんが、今よりも、まだまだ実践的な能登町全体、会場を一つにして、能登町職員も全員参加、16分団も全分団参加で、一人一人が町民のために役割分担するレベルの高い防災訓練をやるべきではないでしょうか。防災訓練の反省点と、今後のお考えを聞く。

答 町長

より実践的な訓練になるよう、防災意識を高めていく。今後は、想定する災害の種類や訓練の被害想定について、より実践的な訓練となるよう、先進地の訓練内容を参考にしたり、本年10月1日に新たに配置され、奥能登2市2町を管轄します。危機管理官よりアドバイザーをいただきながら、計画していききたい。また、消防団を始め各種防災関係機関の訓練に対するそれぞれ役割や行動につきまちは、各機関で協議、決定の上、担当課に提案、報告をしていただければ対応していきたい。今後も多くの住民が自主的に訓練に参加し、一人一人が防災意識を高めていただけるよう努めてまいります。



向峠 茂人 議員

問 姉妹都市締結を問う

答 流入人口拡大に繋がっている

然必要となるので、施設の老朽化や緊急性を考慮しながら今後対応する。

問 分団活動に対して助成金を

答 町長

問 消防団員不足の打開策を示せ

答 町長

職員に対して、直接、消防団への入団依頼、職員採用の要件に分団員加入を加えるというものは、なかなか難しいものがある。今後、現団員や入団希望の職員が活動しやすい環境を整えていく。

問

海岸に隣接している分団格納庫の移設を

答 町長

現在7分団あるが、詰所の移設となると、移設先の用地確保や財源、地域や分団との調整等が当



消防団出初式で敬礼する分団長

確かに、分団の活動や会合には、お金が必要になる。団員の報酬金額の引き上げは、平成30年に大幅な見直しを行った。また、今年度より消防団活動を地域全体でサポートするため、町内の事業所や販売店などの店舗の皆様にも、消防団員やその家族に各種サービスや割引等の提供を行っていた。大きく「消防団応援の店」登録制度を行っている。現在登録件数が9件となっている。

問

締結している2都市との経緯と効果は

答 町長

千葉県流山市とは、旧内浦町時代に、内浦町出身の方が流山市の東邦酒造の杜氏をしていたことが縁で、交流を深め、平成24年1月17日に締結した。宮崎県小林市とは、旧能都町時代の平成7年に小林市の前進である野尻町と締結を行っており、平成の合併を経て、新市町となった後も活発な交流を重ね、平成24年11月23日に姉妹都市締結を行った。

締結後の効果については、記念イベント時に相互の模擬店を出店、特産品の販売や町のPR、出向宣伝に努め、町の知名度、認知度の向上や経済

答 町長

今後の姉妹都市の在り方については、それぞれの市町が持つ地理的な特徴や経済的な効果、歴史や文化を理解し、交流を図り、あらゆる面での連携や協力体制が強化され、

問 今後の事業展開などの在り方は

の活性化に繋がっている。また、児童・生徒の交流として、千葉県流山市とは、毎年双方の小学生が両市町で宿泊体験を行い、宮崎県小林市とは、双方の中学生が1年ごとに訪問と受け入れを行い、体験教育の充実が図られ、民間交流が進むことで流入人口の拡大にも繋がっている。

相互にとって、有益な効果的な事業を進めたい。また、町民の皆様にも都市をより身近に感じてもらえるよう、姉妹都市の情報誌や観光パンフレット等も準備し、新庁舎での特設コーナーも含めて検討したい。現在は、姉妹都市の物産品等を直接、町民が購入できる販売所や随時注文できる取扱店等もないので、双方の商工会を含めた関係機関と今後調整を図っていきたい。



鍛冶谷 眞一 議員



石川県立中央病院玄関口

問 特急バスの県立中央病院立ち寄り

答 既に試験運行を実施

問

本年9月に、「特急バスの県立中央病院前への立ち寄りを要望せよ」と提案したが、試験的に立ち寄っていると情報が入った。現在の状況と、これからの見通しを示せ。

答 町長

北鉄奥能登バス株式会社からは、乗降場所を県立中央病院玄関前のロータリーとして既に試験通

行を実施、北陸信越運輸局石川運輸支局への許可申請の準備に入っていると聞いている。

問 新統合庁舎周辺整備の再確認

答 業務が滞らないように準備

問

① 来庁者の駐車場の確保は出来たか。
② タフシーの乗降場、待機場の位置を含めて、車の流れと通行区分を示せ。
③ (新規に架けた) 第2城都橋に接続する町道の構想を示せ。

答 町長

① 庁舎前の駐車場、商工会前の第1駐車場、そして、梅の木川向かいの第2駐車場で、計133台整備した。
② 現段階で、開庁後の車両の流れを正確に把握するのは困難で、状況を見守りながら、規制などを検討したい。
③ 接続する町道整備の具体的な計画は、まだ確立していないが、今後の状況を見ながら、通行する町民の安全を確保したい。
④ 平成26年度、事業認可を受け事業に着手した。地権者との交渉も順次進めてきたが、地権者全員の契約には至っていない。今後も交渉し、事業の整備完了を図りたい。
⑤ 梶川左岸の整備が完了していないことから、事業着手に至っていない。

④ 梶川左岸の都市計画道路の進捗を報告せよ。
⑤ こどもみらいセンター前の都市計画道路は着手するのか。



議案をチェック

12月定例会議の議案質疑

岡田端雄市 議員

ふれあいの里施設指定管理者候補の決定内容は公募により新会社「能登みらい創造ネットワーク」を柳田植物公園の指定管理者候補とする理由は何か。また、現在の指定管理者は、問題となっていた調理師不足についての対応はしていなかったのか。今回の公募で、経費の縮減は図られたのか。



ふれあいの里 (柳田植物公園)

岡町参事兼ふるさと振興課長

2団体より申請があり、書類審査と能登町公の施設指定管理者選定委員会を開き、事業計画書のプレゼンテーションを受けた。様々な体験プログラムを用意し観光客を呼び込むと共に、地元から愛され地域に根差した持続的な運営と利用者の増大を図る計画で、地域の活性化についても提案があり、評価できたため候補者とした。また、調理師については、2年前から求人募集しており、今年度に入り1名確保した。具体的な縮減方法はないが、上限額の5924万2千円で指定管理する事業計画となっている。

岡馬場 等 議員

補正予算の一時借入金と公債費の内訳は

令和元年度の一時借入金はいくらか。また、公債費の財源内訳は。

岡企画財政課長

現在の一時借入金はないが、年度末までに30億円程度の借り入れを予定している。公債費の財源内訳は、一般財源部分の10億214万5千円は財政調整基金で、その他の財源としては、将来の財政負担を軽減するため、減災基金を取り崩した3億4999万9千円と、住宅建設関係で地方債や国庫補助金が確定したことにより確保された371万1千円で、合計13億5585万5千円である。

岡鍛冶谷員一 議員

人件費減額補正の主な理由は

今回の12月定例会議で人件費補正が多いのはなぜか。

岡総務課長

増額補正では、人事院勧告を受けたことによる。また、減額補正では、職員途中退職や、本年度

は建設事業費が大きく、事業に取組んだ職員の人件費を支弁人件費で払うことになっており、調整したことによる。

岡向峠茂人 議員

消防費について問う

トランシーバーをどれだけ配備するのか。能登庁舎屋上の屋外拡声器の撤去に伴う調査内容は。また、撤去した拡声器を再利用するのか。

岡総務課長

消防団員の相互の情報、命令を双方向で伝達する手段として、特定小電力トランシーバーを全16分団にそれぞれ4個ずつ配備する。

岡広報情報推進課長

能登庁舎屋上の屋外拡声器の間こえる範囲や影響などを調査し、必要な場合、新たに設置するための調査を行う。使えるものは利用したいが、おそらく新しいものになる。

議場が新しくなりました。
ぜひ一度、傍聴にお越しください。(能登町役場4階)



総務産業
建設委員
会

國盛孝昭 (委員長)

吉田義法 (副委員長)

小路政敏 酒元法子

河田信彰 志幸松栄

宮田勝三

問

防災施設等設備費の28万1千円は。

答

消防団に配置するトランシーバーで、追加で配備するものである。



各消防団に配備されたトランシーバー

問

能登町債権管理条例の制定は、いつまで経っても見込みのないものを整理するものだと思うが、これに該当するものの総額というのは、今現在で分かるのか。

答

滞納繰越をしているもので、平成31年2月末現在で強制徴収債権も含めて、2億9200万円ほどある。内容は、町税で約7450万円、国営農地パイロット事業の分担金で1億570万円、国民健康保険税で約5600万円、介護保険料で1250万円、病院の診療受診負担分で2000万円弱となっている。第7条で、徴収のしようがないものは、法律にもとづいて債権を消滅させることが出来るのが強制徴収債権である。ところが、私法上の債権については、これまでこういった条例を持っていなかったために、なかなか消滅させることが出来なかった。こういった債権が条例を制定することによって消滅させることが出来るもの

である。あくまでも消滅させることが出来ない債権を、いつまでも町で管理していくのも非効率的なので、今回条例を制定して整理するものである。徴収できるものを放棄するのではなく、徴収できないものについて消滅させるということである。

問

国民健康保険でも滞納者の保険証の色は違うのか。

答

税務相談のうえ色は同じだが短期保険証を発行している。

問

ふれあいの里指定管理について

指定管理選定委員会で審査されている委員を教えてほしい。

答

選定については、企画財政課監理室で行っている。令和元年11月19日に指定管理審査会を開催した。選定委員は、副町長、町参事兼ふるさと振興課長、総務課長、企画財政課長、有識者として学習

院大学の土田教授の5名で構成されていて、委員長は学習院大学の土田教授である。

問

審査された結果は、全員賛成か。

答

審査項目は8項目で、委員はそれぞれの項目に基づいてヒアリングを行い、それらを総合的に判断して点数化した結果で選定している。

問

選定した指定管理者について、不安材料というのはなかったのか。

答

初めてということ、収支がとれるのかという不安もあったが、地元の熱意とか、地域で頑張ろうという姿勢が評価できるといった意見があった。

問

赤字が増加しているのか。

答

今現在の指定管理者の平成29年度と平成30年度の収支を確認したら、2年連続に赤字になってい

るので、そういったものを改善するための新しい提案を求めするために、公募して指定管理者を選定した。

問

赤字が解消されるような経営なのか。

答

事業計画でいうと、どちらも黒字の収支の計画です。事業計画書と、来年実際にやって、収支がどうなるかというのをモニタリング調査や、収支の実績報告書を確認して、適正な指定管理となっているか、今後検証していかねばならないと考えている。担当課としても、より以上にチェックしていかなければならないと考えている。

問

調理員が不足している

と聞いたが見込みはあるのか。今働いている方以外に職員は増えるのか。赤字解消となるような目玉の事業計画とかの方針はなかったのか。同じような人員体制で働いて改善されるのか。計画は、

答

調理員は増えない。今の指定管理者から新しい提案がなかった。今回選定した方の提案には、植物公園のゾーンをしっかりと管理していきたいという計画があった。また、新たな商品の開発もやりた

る。職員は増えない。今の指定管理者から新しい提案がなかった。今回選定した方の提案には、植物公園のゾーンをしっかりと管理していきたいという計画があった。また、新たな商品の開発もやりた

問

判定の材料とすれば、現在の指定管理者からの目立つ提案はなかった。今回選定した指定管理者からは、植物公園全体の計画を更に進めていくような計画になっていた。

答

個別の提案については、取り組み方針として30haの公園を活かしながら、その公園をリフレッシュしてここでしか見られない景観の提供をしていく。それから様々な体験プログラムを楽しめる拠点として、公園の宿泊施設だとか民間の施設をネット

問

ワークとして広域的に進めていきたい。体験展示施設の整備ということで、現在の施設の中でも利用

してこ

答

してこ

されていない休憩所などを利用する。ふれあいハウス、今のバーベキュー場を少し改装する計画をする。合鹿庵の運営方式を見直す。ガーデンの造成の基盤整備では、例えば、イングリッシュガーデンや里山ガーデンの造成などで大規模な景観エリアの造成を行ってきたい。継続事業として、今現在のグラウンドゴルフ大会とか桜まつり、キッズフェスタ、ローズフェスタ、花菖蒲まつり、星空コンサートなどは継続して事業を行う。新規事業として、「つなぐ」をテーマに「食で世界をつなぐ」「里山と里海をつなぐ」「小さく人ともをつなぐ」「花の庭をつなぐ」「親子をつなぐ」「友人をつなぐ」「都会と田舎をつなぐ」あとはユニークな体験プログラムの提供ということで、これら色々なプログラムを提供して誘客を図ってきたいということ、能登半島の周遊観光を滞在型にシフトする。そのた

めに、植物公園を核として事業を発信していきたい、そこを核にした事業を展開していきたいという計画や地域の活性化を図る提案が多かった。

図 施設はもうだいが老朽化していると思うが、町として指定管理をずっとやっていくつもりなのか。

図 これは能登町だけじゃなく日本全体の制度であり、平成15年6月に地方自治法の改正によって、今までは町が委託料を持って委託していたものを、指定管理制度を導入して、指定管理者を決めるには議会の議決を求めることとなっている。

図 民間に譲渡出来ないのか。もう何十年も経ってれば譲渡できるのではないか。

図 施設の設置目的を達成したとかであれば、民間に譲渡するとか、あるいは、この公の施設の廃止という提案を議会にして、

議決をもらって民間に譲渡というのは今後あり得る。今後老朽化していくと、ますます維持管理経費がかかってくると思う

教育厚生委員会

田端雄市(委員長)
馬場 等(副委員長)
堂前利昭 金七祐太郎
市濱 等 向峠茂人
鍛冶谷員一

ので、今後見直していかないと、指定管理料は増えていくと考えている。

図 補正予算での教育委員会分の減額分について説明せよ。

図 小学校及び中学校のスクールバス委託料についての入札差額分である。

具体的には、松波小学校が65・7%、宇出津小学校分が62・7%、鶴川小学校分が71・7%、柳田小学校・中学校が67・4%、能都中学校分が62・5%となっている。



図

入札の落札率は低く、契約条件も悪くないか。

図 委託業務は、指名入札でしたが、今年度から一応最低価格を設けた。

今年度はとりあえず、1年ごとの契約期間になっているが、来年度からは3年の長期契約を予定している。

図 病院企業会計の補正の569万円の減額について説明せよ。

図 就学資金の減額である。新人、継続を含めて19名の方を予定していたが(在学中の方と新人の方も含めて)12名になったという事での減額である。

図 例年、町の職員枠を5名程度としており、就学資金について貸す際も5名程度としている。1学年に5名は多すぎると思われるかもしれないが、途中で辞める方もいるので、今回の減は想定内である。

図 今後の就学資金事業の募集人員は。

図

来年度は4名、再来年度は8名。4年制の学校へ行かれる方、3年制の学校へ行かれる方、就学資金を借りないで就職される方などもあるため、年度ごとにばらつきはあるが、5名ずつ募集かける予定である。

図 学校支援員の仕事内容について説明せよ。

図 小学校1年から中学生にいたるまで、勉強や生活するうえで、支援を要するお子さんがいる。そのお子さんたちのそばにいて支援する人である。

能登町には14人いるが、支援を要する児童生徒は50人ほどいる。



10月から12月の主な議会活動

10月2日	広報編集特別委員会
10月4日	総務産業建設常任委員会
10月6日	能登町総合防災訓練
10月7日	総務産業建設常任委員会管外視察研修（～9日）・北海道
10月9日	教育厚生常任委員会管外視察研修（～11日）・沖縄県
10月17日	広報編集特別委員会
10月23日	議会運営委員会・全員協議会・第6回能登町議会10月会議
10月23日	北海道東神楽町議会行政視察（来町）
10月25日	内浦総合支所落成式
10月30日	天皇陛下御即位石川県奉祝大会式典
11月2日	流山市民まつり（～3日）
11月8日	天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典（～9日）
11月12日	町村議会議長全国大会、能登地区町議会連絡会視察研修（～14日）
11月20日	総務産業建設常任委員会
11月21日	能登町町会区長会連合会能都支部との懇談会
11月26日	石川県町村議会議長会協議会（県社会福祉会館）
11月29日	議会運営委員会
12月3日	議員全員協議会
12月6日	第7回能登町議会12月定例会議（議案上程）
12月9日	各常任委員会
12月11日	第7回能登町議会12月定例会議（一般質問）
12月13日	第7回能登町議会12月定例会議（採決） 新庁舎視察



天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典



内浦総合支所落成式

令和元年度出欠状況表

○…出席 欠…冠婚葬祭 通院 私事都合等により欠席 一…対象外 オ…オブザーバーとして議長が出席

月 日	会議名	議員名													
		吉田 義法	堂前 利昭	馬場 等	田端 雄市	金七 祐太郎	國盛 孝昭	市濱 等	小路 政敏	酒元 法子	河田 信彰	向峠 茂人	志幸 松栄	宮田 勝三	鍛冶谷 眞一
01/10/02	広報編集特別委員会	○	○	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○
01/10/04	総務産業建設常任委員会	○	-	-	-	-	○	-	○	欠	○	-	○	○	-
01/10/17	広報編集特別委員会	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	○
01/10/23	議会運営委員会	-	-	-	○	○	○	-	○	-	才	○	-	○	-
01/10/23	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
01/10/23	10月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
01/11/20	総務産業建設常任委員会	○	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-	○	○	-
01/11/29	議会運営委員会	-	-	-	○	○	○	-	○	-	才	○	-	○	-
01/12/03	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
01/12/06	12月定例会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
01/12/09	各常任委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
01/12/11	12月定例会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
01/12/13	12月定例会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○

まちかど

インタビュー



(インタビューアー)
吉田 義法

今回のまちかどインタビューは、木郎走志会(もくろうそうしかい)会長の和田将憲さんです。

できることを一生懸命に。
背伸びをせず地区住民と一緒に楽しむことが原点。

◆木郎走志会とはどのような団体ですか

約25年前より、青壮年团的役割を担う活動をしている団体です。木郎とは、旧内浦町不動寺地区一帯の旧名称で、現在の会員は20代から70代までの30名です。

◆活動内容を教えてください

不動寺公民館の事業で、8月に開催されている「ふるさと祭り」の会場準備や屋台を担当しています。他には、演芸発表が行われる2月の公民館祭で、来場者の皆さんに手作りの豚汁を振舞っています。また、駅伝大会やバレーボール大会などにも参加しています。



内浦一周駅伝大会にも毎年参加

◆活動をしていく上で
の原動力は何ですか

地区住民の皆さんに楽しんでいただきたい、という気持ちは、もちろんありますが、やはり自分達も一緒に楽しむという気持ちが大事だと思っています。

◆最後に今後の目標は
ありますか

木郎走志会ができた当初から会員として活



公民館祭りで豚汁を振舞う会員たち

動してきて、昨年より会長を任せられました。全体的に会員の年齢が上がってきましたが、これまでの活動をできる限り持続し、若者が活動できる場を守っていきたくと考えています。

次の定例会議は3月6日開会です。

議会の日程については、決定しだい町のホームページ、または有線テレビでお知らせしています。ぜひ傍聴にお越しください。ご意見などありましたら、議会事務局へご連絡ください。

広報編集	
特別委員会	
委員長	酒元 法子
副委員長	堂前 利昭
委員	吉田 義法
	馬場 等
	河田 信彰
	鍛冶谷 眞一

編集後記

不動寺地区は8集落、人口400人程の小さな地区です。私もこの地区の住人の一人です。今後、さらに少子高齢化が進み、人口の減少が予測されます。それに伴い、昔ながらの行事の開催が難しくなるかもしれません。しかし、諦めず楽しみながら、できることを一生懸命に取り組むことが、地区を明るくし、町の活性化に繋がると信じています。

委員 吉田 義法